



社会福祉法人神愛会  
2020年度 事業方針・計画

《神愛会の理念》

「キリストの愛を以って互いに仕える」

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」と言われたイエス・キリストの戒に従い、キリストの同じ愛を以って、助けを必要とするすべての人のために奉仕します。

《神愛会の使命》

神愛会は、「キリストの愛を以って互いに仕える」ことを基本とし、すべての人が個人として最大限に尊重され、人生の最後の瞬間まで尊厳をもって生きることができるよう、あらゆる努力を継続して一人一人の自律した生活を支えます。

《事業方針》

1. 常に神愛会の理念に立ち返り、利用者本位のサービスに努めます。
2. 利用者の豊かな生活を支援するため、常にサービスの質の向上に努めます。
3. 福祉専門職としての資質向上を目指し、常に自己の研鑽に努めます。
4. 地域に開かれた事業を進めるため、様々な人々と連携に努めます。

《事業計画》

2020年度基本方針

社会福祉法人神愛会の理念である「キリストの愛を以て互いに仕える」に従いながら、キリストに愛を以って、助けを必要とするすべての人のために奉仕できるよう、運営する事業が安定して最善のサービスが提供できるようにします。また、社会福祉諸法の理念に基づき、利用者の尊厳をまもるとともに、法人の物的、人的資源を社会貢献のために有効に活用できるようにします。

— 「丁寧さ」をキーワードにそれぞれの事業の充実を目指します。—

【丁寧】 注意深く念入りであること  
細かい点にまで注意が行き届いていること  
動作や言葉遣いが礼儀正しく心がこもっていること

1. 理念の継承

- ① 神愛会の基本理念・使命を継承する活動を進めます。

2. サービスの質の向上

- ① 特別養護老人ホーム（ショートステイを含む）では、認知症介護と看

取り介護の充実を図り、より安心・安全な生活を実現する介護を実現します。そのための介護・看護職員の充実に傾注し、閉鎖中ユニットの早期再開を目指します。

また、法人の理念に基づき、ユニットケア・個別ケアに合致した「ケア指針」をボトムアップで作成していきます。

- ② デイサービスセンターでは、利用者一人一人が営む日常生活全体を丁寧に見つめ、住み慣れた自宅での生活ができるだけ継続していくために必要な健康及び体力の増進、日常生活動作、そして生きる意欲の向上を図ります。また、利用者に対するすべてのケアにあっては丁寧に科学的な根拠を求めながら実践していきます。
- ③ 深和ホームでは、高齢化に伴い訪問介護・訪問看護との連携、施設の維持管理に対応し、入居者の安心、安全への対応に努めます。
- ④ 居宅介護支援事業では、引き続き上富田町を中心にした地域包括ケアシステムの実現に努めるとともに、この圏域で仕組み作りが進められている在宅医療・介護の連携システムがより円滑に機能するように最大限の協力をしていきます。
- ⑤ 地域における公益的な取り組みを検討し実施します。
- ⑥ 介護職員の養成事業（介護職員初任者研修）を実施します。
- ⑦ 2021年度に向けて、現在のキーワードである「丁寧さ」の妥当性を検証し、必要であれば新たなキーワードを掲げられるようにします。

### 3. 職員の資質の向上

- ① 園内研修内容を充実させ、効果的な職員研修を実施します。
- ② 法人職員としてのあり方を示した「職員手帳」を作成し、これを活用した職員研修を徹底していきます。
- ③ 職場内 SNS「メディカルケアステーション」を活用し、職員の資質の向上に必要な情報を適時配信していきます。
- ④ 介護職員の定着と養成のための研修を実施します。
- ⑤ 介護福祉士他専門資格の取得を支援します。

### 4. 地域の人々との連携

- ① 地域の医療・保健・介護機関との連携を強化します。
- ② ボランティア活動を充実させます。
- ③ 後援会、家族の会との協働を充実させます。

### 5. 岩田旧施設の整理

- ① 岩田旧施設整理のための検討を継続します。

2020年度 事業方針・計画をお示ししたところですが、社会福祉法人神愛会の「理念」「使命」「事業方針」について解説しています。

神愛会の理念 「キリストの愛を以って互いに仕える」

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」と言われたイエス・キリストの戒めに従い、キリストと同じ愛を以って、助けを必要とするすべての人のために奉仕します。

神愛会の使命

神愛会は、「キリストの愛を以って互いに仕える」ことを基本とし、すべての人が個人として最大限に尊重され、人生の最後の瞬間まで尊厳をもって生きることができるよう、あらゆる努力を継続して一人一人の自律した生活を支えます。

事業方針

1. 常に神愛会の理念に立ち返り、利用者本位のサービスに努めます。
2. 利用者の豊かな生活を支援するため、常にサービスの質の向上に努めます。
3. 福祉専門職としての資質向上を目指し、常に自己の研鑽に努めます。
4. 地域に開かれた事業を進めるため、さまざまな人々と連携に努めます。

解説 社会福祉法人神愛会では理念として「キリストの愛を以って互いに仕える」という理念を掲げています。理念とは「心の深くにある、ものごとの筋道」であり、変わることのない想い、迷ったときに方向を照らしてくれる灯台の明かりのようなものです。

キリストが私たちに求める愛とは、「自分を愛するように隣人を愛する」ことであり、生きづらさを抱えた人たちに心を寄せ、それぞれの苦しみに救いの手を差し伸べてきたキリストのはたらきに示されています。私たちはそれに倣って利用者に寄り添い、具体的なケアを実践していきます。

「寄り添う」とは、利用者の傍らにいながら、同じ目標に向かって伴走することです。この同じ目標を共有するためには利用者として「向き合う」必要があります。利用者としてしっかりと向き合わなければ利用者を理解することはできません。同時に利用者も私たちが理解することができません。向き合う事で寄り添うことができるし、寄り添わなければ向き合う事すらできないとも言えます。そして、この繰り返しの中で信頼関係が醸成されていくのです。また、社会福祉法人神愛会は「すべての人が個人として最大限に尊重され、人生の最後の瞬間まで尊厳をもって生きることができるよう、あらゆる努力を継続して一人一人の自律した生活を支える」ことを使命としています。

しかし、私たちの現場は日々さまざまなことが起こり、思いはあっても「神愛会の理念」を完璧に果たすことが難しいというのが現実です。だからと言って、それらを蔑ろにしてよいというわけではありません。完璧でないにしろ、神愛会として掲げた理念を誠実に果たしていこうとする「方向性」を自分の中に持ち続けるという事が問われるのです。その方向性がぶれなければ、ケアに関わる知識と技術が自然と高められ、「一人一人の自律した生活」を

支えられる可能性が高まります。その結果、「利用者本位のサービス」を確実に提供することができるのです。

「利用者本位のサービス」とは、当然のことながら職員の都合や段取りに左右されるサービスではありません。いくら、手際が良く、きれいで安全なケアであっても、利用者のことを思い、合わせるという「心を込めたケア」でなくてはだめなのです。マザーテレサは言っています。「いかにいい仕事をしたかよりも どれだけ心を込めたかです」と。私達はつねに立ち返ることのできる「理念」を意識し、これと今の自分自身の想いや行いの距離を認識し、「理念」が指し示す高みに少しでも近づいていく努力が必要なのです。

また、このことに対して試行錯誤を繰り返しながら行う不断の努力こそ、福祉専門職としての資質ともいえます。

「利用者の豊かな生活」とは何でしょうか。まず、人の豊かさは一人ひとり違うという当たり前の認識を持つことが大切です。一人ひとり違うということは、その違いを理解しないと何をどう支援すればよいのかわかりません。だからこそ、相手のことをできるだけ知ることが求められるのです。また、利用者の生活は過去から現在、そして未来へと継続しています。この時間の流れを意識しながら、これまでの生活が継続できるように支えるということが大切です。その実現こそが「豊かな生活」の基礎となるものなのです。そして、このことを実現していくためには、サービスの質の向上が求められます。

サービスの質とは何でしょうか。前述した通り、利用者の豊かな生活が何であるかをしっかりと理解して、一人一人に必要な支援を行うための、専門的な知識や技術をともなったケアが行える仕組であり、私たちは質の高いサービスを目指さねばなりません。

質の高いサービスとは、決して平等なサービスではありません。むしろいかにして平等ではない公平で公正なサービスに徹するかということです。ケアの現場で言えば、平等とは誰かが決めた「豊かな生活」に合わせていこうとする事です。公平とはそれぞれの状況や状態に応じて一人一人の「豊かな生活」を実現していくという事です。

平等という思想を過剰にケアの現場に持ち込んだことによってもたらされた悲劇が、障害者施設「津久井やまゆり園」の事件です。多くの利用者を殺害した植松被告は、「重度障害者を殺害すれば不幸が減る」「障害者に使われていた金が他に使えるようになり世界平和につながる」と訴えました。植松被告が決めた「不幸」「世界平和」を平等に解消していくためには、彼の思想では「非生産的な障害者を殺す」しか方法がなかったのです。これは、非常に極端な事例ですが、平等と公平をはき違えると大きな問題を生じさせます。

サービスの質を高めるためには、まず利用者の「豊かな生活」を理解するためのアセスメント能力を磨く必要があります。その上で、明らかになる個別の課題を解決するためには様々な手立て（社会資源）を使いこなす必要があります。自分自身でそれに必要な能力を磨くことは当然ですが、利用者を大切に思っている他の人（ご家族や地域の様々な関係者も含みます）たちとの連携を深化させていくことも必要です。これらが、より良くできるということで結果的に利用者の満足を満たすことになるのです。

神愛会では毎日、朝の祈りが捧げられます。祈りが捧げられている時間は短いですが、自分たちが神様のみ守りの中に生かされていることを覚え、その祈りを通して自分自身の行いを見つめる貴重な機会です。この機会に「利用者や同僚のことを大切に思っているか」「利

用者の豊かな暮らしを守れているか」など、手を止め集中して自分自身を振り返るのです。当然、身の回りの安全を確保することを怠ってはいけませんが、祈りを捧げる時間は毎日決まっています。祈るための準備も日々の業務の中に習慣化させていく事が大切です。社会福祉法人神愛会が掲げる理念に誠実に従い、与えられた使命を実現していくために、「2020年度 事業計画・方針」を取り決めました。これらを実践し、継承していくのは神愛会の職員一人ひとりであることを常に認識し、責任感をもって日々の業務に当たることとても大切なことなのです。